

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 商業販売統計(2009年6月)
～政策効果により押し上げ～

発表日 2009年7月29日(水)

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主任エコノミスト 新家 義貴
T E L : 03-5221-4528

(単位: %)

		商業販売額		卸売業		小売業		大型小売店			百貨店		スーパー		コンビニ販売額	
		前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	既存店 前年比	既存店 前年比	既存店 前年比	既存店 前年比	既存店 前年比	既存店 前年比	前年比	既存店 前年比
08	1月	3.7	0.6	4.5	0.7	1.3	0.5	▲ 0.9	▲ 2.1	▲ 2.1	▲ 2.1	▲ 2.1	▲ 2.1	▲ 2.1	0.1	▲ 1.6
	2月	5.6	▲ 0.2	6.3	▲ 0.3	3.2	▲ 0.3	2.6	1.2	0.9	1.4	1.4	1.4	1.4	3.4	0.8
	3月	1.5	▲ 1.1	1.7	▲ 1.7	1.0	0.1	1.7	0.2	▲ 1.2	1.3	1.2	1.2	1.2	1.2	▲ 0.6
	4月	4.3	3.0	5.6	4.2	0.1	0.0	▲ 0.7	▲ 2.2	▲ 3.4	▲ 1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	▲ 0.2
	5月	3.8	1.7	4.8	2.2	0.3	▲ 0.3	▲ 0.6	▲ 2.0	▲ 2.5	▲ 1.7	5.1	5.1	5.1	5.1	3.5
	6月	4.0	▲ 0.4	5.0	▲ 0.5	0.3	0.1	▲ 2.7	▲ 4.0	▲ 7.3	▲ 1.7	5.7	5.7	5.7	5.7	4.0
	7月	9.0	3.3	11.0	3.9	2.0	0.2	0.2	▲ 0.7	▲ 2.3	0.5	13.3	13.3	13.3	13.3	11.5
	8月	2.9	▲ 3.3	3.5	▲ 4.1	0.7	0.2	▲ 1.0	▲ 2.2	▲ 2.9	▲ 1.8	6.7	6.7	6.7	6.7	5.1
	9月	3.3	▲ 2.8	4.2	▲ 3.5	▲ 0.3	0.0	▲ 2.1	▲ 3.3	▲ 4.6	▲ 2.6	7.5	7.5	7.5	7.5	6.4
	10月	▲ 1.1	▲ 1.6	▲ 1.2	▲ 1.5	▲ 0.7	▲ 0.6	▲ 2.9	▲ 4.3	▲ 6.9	▲ 2.6	9.8	9.8	9.8	9.8	7.9
	11月	▲ 8.6	▲ 4.8	▲ 10.7	▲ 6.3	▲ 0.9	▲ 0.2	▲ 1.7	▲ 3.1	▲ 6.3	▲ 0.7	9.1	9.1	9.1	9.1	7.2
	12月	▲ 11.2	▲ 6.7	▲ 13.8	▲ 8.5	▲ 2.7	▲ 1.7	▲ 4.8	▲ 6.2	▲ 9.6	▲ 3.6	7.8	7.8	7.8	7.8	5.8
09	1月	▲ 15.5	▲ 2.5	▲ 19.5	▲ 3.6	▲ 2.4	▲ 0.1	▲ 3.8	▲ 5.5	▲ 9.2	▲ 3.1	8.8	8.8	8.8	8.8	6.8
	2月	▲ 21.5	▲ 4.6	▲ 25.7	▲ 5.4	▲ 5.7	▲ 0.2	▲ 6.5	▲ 8.1	▲ 11.4	▲ 6.1	4.0	4.0	4.0	4.0	2.0
	3月	▲ 24.0	▲ 8.5	▲ 29.2	▲ 10.8	▲ 3.8	▲ 1.0	▲ 6.7	▲ 8.2	▲ 12.9	▲ 4.9	6.1	6.1	6.1	6.1	3.9
	4月	▲ 22.4	5.9	▲ 27.8	7.5	▲ 2.8	0.7	▲ 5.0	▲ 6.7	▲ 11.3	▲ 4.0	6.5	6.5	6.5	6.5	4.0
	5月	▲ 24.3	0.8	▲ 30.4	0.4	▲ 2.7	0.1	▲ 4.5	▲ 6.5	▲ 12.1	▲ 3.0	3.1	3.1	3.1	3.1	0.8
	6月	▲ 23.4	▲ 1.5	▲ 28.8	▲ 1.2	▲ 3.0	▲ 0.3	▲ 5.1	▲ 6.7	▲ 8.9	▲ 5.4	0.9	0.9	0.9	0.9	▲ 1.7

(出所) 経済産業省「商業販売統計」

○ 政策効果によって下げ止まりつつある財消費

6月の小売業販売額は前年比▲3.0%と10ヵ月連続でマイナスとなり、事前の市場予想(前年比▲2.5%)を下回った。季節調整値でも前月比▲0.3%と小幅悪化している。

もっとも、4-6月期で均してみると前期比▲0.1%であり、08年10-12月期の同▲1.2%や09年1-3月期の同▲1.8%からは減少幅が明確に縮小している。また、小売業販売額は金額ベースの統計であり、足元の物価下落によって押し下げられている面があることにも注意が必要である。物価上昇の影響を考慮した実質値¹でみると、前年比+0.8%(5月:同▲0.4%)と改善しており、前月比も+0.2%になる(4-6月期の前期比は+0.1%)。1-3月期まで落ち込みが続いていた財消費が、足元で落ち着きつつあることが窺える。

小売業販売額に限らず、家計調査や消費財出荷といった他の個人消費関連統計でも4、5月分は比較的確めの結果となっていることから考えると、4-6月期のGDPベース個人消費は前期比で3四半期ぶりにプラスに転じる可能性が高いだろう。エコカー減税・補助金やエコポイント制度などの政策効果が押し上げ要因になっているとみられる。雇用・所得環境の大幅悪化が続くなかでこうした政策効果が今後次第に弱まっていくと考えられることから、先行きについては再び弱めの動きに戻る懸念もあるが、少なくとも4-6月期については、個人消費の増加がGDP成長率のプラス転化を後押しする要因になるだろう。

○ 業種別の推移

小売業販売額(名目)を業種別にみると、機械器具小売業が前月比+3.2%と2ヵ月連続で増加している

¹ 消費者物価の財(除く電・ガス・水道)で実質化。6月分の値は未公表のため、東京都区部の値等から推定した。季節調整は当社。

ことが目に付く。エコポイント制度の導入により、薄型テレビや冷蔵庫等の売れ行きが好調であることが寄与しているとみられる。一方、自動車小売業は前月比▲4.0%と2ヶ月連続で減少したが、既に公表されている業界統計では、6月分の販売台数が5月から持ち直していることからすると、やや違和感が残る結果である。

その他、織物・衣服・身の回り品小売業は同▲1.8%（5月：同▲1.8%）と、家計の節約志向を受けて引き続き低調であるほか、飲食料品小売業も、価格低下の影響もあってこのところ売上を落としている。

○ 大型小売店販売額の動向

大型小売店販売額（既存店）は前年比▲6.7%（5月同▲6.5%）と低迷が続いている。内訳をみると、百貨店が同▲8.9%と前月（同▲12.1%）から減少幅を縮小させた一方で、スーパーの減少幅が前月から拡大した。百貨店については、例年は7月に行うセールの時期を6月に前倒ししたことによって押し上げられている面もあるため、反動減が予想される7月の結果と均してトレンドを判断する必要があるだろう。

コンビニエンスストア販売額（既存店）は前年比▲1.7%と、08年4月以来の減少に転じた。これは、タスポ導入から一年が経過し、前年比でみた来店者数増効果が一巡したことの影響が大きい。季節調整値でみると、横ばい～やや弱含みの推移が続いている。

